



Peregrine | AssetCenter
コンセプトと導入



© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

この製品はApache Software Foundation (<http://www.apache.org>) により開発されたソフトウェアを含みます。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.1.0に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

I. 一般的な概念	7
1. はじめに	9
本マニュアルの内容	9
対象読者	9
本マニュアルの使用方法	9
2. AssetCenterによるポートフォリオ管理	11
ポートフォリオとライフサイクル	11
ポートフォリオとは?	11
ライフサイクル	12
ポートフォリオ管理の利点	12
業務管理	13
セキュリティの改善	14
法的情報の管理	14
経理情報の管理	15
計画と制御	15
情報システムにおけるポートフォリオ管理	16
適用範囲	16
管理レベル	17
補足ソリューション	17

統合	18
3. 機能アーキテクチャ	19
アプリケーションの構成	19
AssetCenterモジュール	19
外部ツール	21
統合ツール	21
カスタムマネジメント	22
単一のポートフォリオ、複数の管理モード	22
管理モードの実施	23
適用範囲	23
ユーザインタフェース	24
ナビゲータ	24
グラフィカルインタフェース	24
ウィザード	25
パラメータの設定	26
データベースのカスタマイズ	26
ユーザインタフェースのカスタマイズ	26
整合性規則	27
アクション	27
ワークフロー	28
レポート	28
セキュリティ	29
II. AssetCenterの導入	31
4. はじめに	33
このガイドの内容	33
対象読者	33
本ガイドの使用方法	34
プロジェクトの大小	34
5. 一般的な概念	35
プロジェクトの構成	35
運営委員会	35
プロジェクト委員会	35
プロジェクトチーム	36
機能別サブプロジェクト	37
プロジェクトの段階	37
予備調査	38
初期化	38
一般調査	38

詳細調査	38
実行	39
導入	39
6. 導入方法の詳細	41
予備調査	41
プロジェクトの目的および適用範囲を定義する	41
プロジェクトの一般的な目標を定義する	42
評価	42
決定	42
初期化	42
企業リソースの集結	42
プロジェクトチームの構成	43
コミュニケーション	43
計画を立てる	44
QA基準	44
一般調査	44
プロジェクトのスコープ	44
プロジェクトの目標	48
アーキテクチャの選択	49
詳細調査	49
プロセスの再定義	50
承認	50
テストの考案	50
技術調査	50
実行	51
テストの実行	51
パラメータの設定	51
インタフェースの定義	52
様々な開発	52
技術的な文書の作成	52
マイグレーションの準備	52
ユーザ教育を準備する	53
テスト実行	54
実際に使用を開始する	54
舵取りプロジェクト	54
導入	54
初期化	55
実際に使用を開始する	55
実行	55
トラッキング	55
総まとめ	56



一般的な概念

パート

1 | はじめに

本マニュアルの内容

本マニュアルでは、ポートフォリオ管理の概要、およびAssetCenterを用いたポートフォリオ管理を導入する方法について説明します。

対象読者

本マニュアルは、AssetCenterの全体像を把握する必要があるユーザを対象としています。例えば、情報システム管理の責任者、組織の責任者、プロジェクトの担当者（セットアップ、研修、プロジェクトの計画/トラッキング、品質保証など）、統合プロジェクトの責任者、管理者、一般ユーザなどの様々なユーザを対象とします。ただし、特定のモジュールを専門として使用するユーザの方には、各モジュール専用のマニュアルを参照するようお勧めします。

本マニュアルの使用方法

本マニュアルではAssetCenterの概要が説明されています。基本内容を把握した上で、その他の専門マニュアルを参照されるようお勧めします。

2 | AssetCenterによるポートフォリオ管理

ポートフォリオとライフサイクル

ポートフォリオとは？

ポートフォリオとはAssetCenterの適用範囲であり、企業経営で管理する必要のある物理要素および論理要素から構成されています。

ポートフォリオには、以下のような様々な要素が含まれます。

- 土地資産およびこれに類似する資産（例：土地、通路、道路など）
- 不動産（例：建物、空調装置、エレベータ、ケーブル、安全装置、出入管理装置など）
- 機材（例：重機、機械装置、ロボット、荷役用機器、専門機器など）
- 車両：配達用トラック、社用車など
- IT資産（例：コンピュータ、周辺機器、ネットワーク機、PABX、電話機、ソフトウェア、ASP、レンタル電話回線、データベース、バックアップなど）
- 供給品（例：事務用品、アクセサリ、部品、原材料など）
- その他

企業資産の管理の必要性に応じて、AssetCenterのポートフォリオの構成を定義する必要があります。

- AssetCenterでは企業の所有物に限らず、企業が借りる物件 / サービスをも管理できます。後者の管理はより重要であるとも言えます。
- AssetCenterでは、アプリケーションサービスに関連する情報をトラッキングできます。理想的には、サービスプロバイダとクライアント企業の両方がAssetCenterを使用すると、両企業間の関係をより明確にし、生産性を向上させることができます。
- 企業が使用する資産ではないが、サービスを必要とする資産（ヘルプデスク、メンテナンス、資金調達など）のトラッキングも可能です。

ライフサイクル

ポートフォリオ品目のライフサイクルとは、ポートフォリオ品目がポートフォリオに登録されてから（例：購入）、除却されるまで（例：廃棄）の期間とその期間中に起こるイベントを指します。ポートフォリオ品目の種類に応じて、ライフサイクルは大きく異なります。

- ポートフォリオ品目の中には、単価が比較的到低いものもあれば、高額なものもあります。後者の場合、特定の意思決定プロセス（投資、資金調達、資産交換など）と管理プロセス（識別、減価償却など）が必要となります。
- ポートフォリオ品目の寿命は、数十年に達する場合もあります。
- ポートフォリオ品目は、ライフサイクルにおいて様々なイベントを経ます。依頼や取得（購入、賃貸など）から始まり、導入、使用、ヘルプデスク、修理、変更、レビュー、アップグレード、移動、棚卸などの過程を経て、最終的には転売、貸主への返却、無料提供、消費などの段階に達します。
- リース、保証、メンテナンスなどの特定の管理プロセスを要するポートフォリオ品目もあります。

AssetCenterは、強力なデータモデルおよび独自の機能を提供し、上記の複雑な管理プロセスの処理を可能にします。

ポートフォリオ管理の利点

ポートフォリオ品目のライフサイクルは、企業内の様々な側面に関与します。専用機能が欠けた従来の管理システムでは、非合理 / 非系統的な方法で資産がトラッキングされます。この結果、限られた数のデータのみが処理可能であったり、棚卸、データの関連付けまたはデータ入力のコストが増加したりします。

AssetCenterは、ライフサイクルを統合的な方法で管理することを可能にします。各ポートフォリオ品目に関するあらゆる情報が論理的に処理され、情報に容易にアクセスできます。

業務管理

AssetCenterでは、業務のトラッキングが中核となります。日常業務を合理的に管理することで、ポートフォリオ品目のライフサイクルに関する情報がより豊富、正確になります。

- 依頼：依頼管理は多数の役職が関与する複雑なプロセスです。依頼の申請、依頼理由の承認、依頼内容の定義、技術承認、在庫/ポートフォリオでの検索、代替品の検索などの段階が踏まれます。

ポートフォリオ管理が確立していない場合、上記の業務が非合理的な方法で処理されます。アプリケーション、電子メール、メモ用紙、スプレッドシート、あるいは口頭などの様々な手段で業務が行われます。これでは、意思決定プロセスを系統化することもできなければ、プロセスを分析、改善することも不可能です。

AssetCenterは、各企業の組織上の特性を考慮に入れつつ、依頼プロセスの全体をカバーする統合的なソリューションを提供します。とりわけ、承認プロセス、技術的な必要条件、在庫の検索、および機器の代替を能率的に管理します。

- 調達：既存のポートフォリオ品目をを用いて依頼を満たせない場合、依頼品を調達する必要があります。依頼管理と同様に、調達管理は複数の基本機能から構成されています（例：サプライヤのカタログを用いた検索、依頼明細の作成、見積、調達手段の選択（購入、リース）、予算上の承認、発注、受領、請求書の照合）。

AssetCenterは、技術/財務情報の整合性に配慮する点で、従来のサプライチェーンと相違します。

- 在庫管理：従来の在庫管理の機能（予約、棚卸、補充など）に加えて、個別/ロット別の資産タグの割当、自動インベントリ、正確なコスト分担、精密な見積などの強力なポートフォリオ管理機能を提供します。
- 再割当、追加、変更（Moves, Adds and Changes）：ポートフォリオ品目に影響を及ぼすあらゆる日常業務（導入、在庫への返却、アップグレード、アセンブリなど）を考慮に入れられない限り、ポートフォリオのトラッキングは完全なものとは言えません。AssetCenterは上記の業務を単にトラッキングするに留まらず、業務をコーディネートします。この結果、能率性とポートフォリオデータの正確度の向上を図ることができます。

ただし、これはAssetCenterのユーザインタフェースの生産性とカスタマイズ可能度なしでは実現できません。ERPやメンテナンス管理ソフトウェアを使用する場合、毎日変化する数千のデータをトラッキングするために必要な情

報を取得するにあたり大変なコストを伴うのに対し、AssetCenterは能率的、しかも経済的に合理的なソリューションを提供します。

- ポートフォリオからの除却：AssetCenterでは、様々な手段によるポートフォリオ品目の除却を管理できます。除却理由には、廃棄、転売、リースの終了など一般的なものから、不慮の破棄、紛失、盗難などの例外的なものがあります。賃貸資産やリース資産の場合は、特に注意を払って除却プロセスを管理する必要があります（例：契約の自動更新を予測する、期間内に契約条件に基づいて資産を返却する、拡張機器やデータなどの企業資産を回収する）。

上記のAssetCenter機能によって、情報の範囲を拡張し、情報量を増加しつつ、明瞭、厳密な協調性のあるプロセスを導入することが可能になります。

セキュリティの改善

AssetCenterは企業のインフラストラクチャに関する詳細データを管理するため、当然のことながらセキュリティポリシーは大変重要な課題として取り扱われています。

- インフラストラクチャの維持：資産タグの適切な割当、インベントリの自動化、タスク割当の明確化、トラッキングの合理化、厳密な予防メンテナンス（検査、バックアップ）などを実行しつつ、企業のインフラストラクチャに関する情報をリアルタイムで更新することが、AssetCenter機能の目的です。この結果、不注意／悪意の行為を防止し、異常を迅速に検出することができます。
- 出入管理：AssetCenterでは、鍵、出入管理用のバッチからユーザアカウント、メールボックスに到るまでを管理し、企業の建物への出入りおよび企業データへのアクセスを制御できます。
- セキュリティプロセス：防止アクションの設置（消火器の点検、バックアップなど）から緊急処置の定義に到るまで、AssetCenterでは企業のセキュリティプロセスを設置／管理できます。AssetCenterはアラームシステムやヘルプデスクを統合することができるので、セキュリティ管理の理想的な基盤を築くことが可能です。

法的情報の管理

インフラストラクチャ管理では、様々な法的情報を管理する必要があり、これをポートフォリオの業務管理と切り離すことはできません。

- 購入契約：AssetCenterは、マスターリース、賃貸、買取オプション付リースなどの様々な契約に適用できるトラッキング機能（詳細情報、適用範囲、修正、満期など）やコントロール機能（課税、賃貸料の計算など）を提供します。

- ライセンス契約：ソフトウェアの使用率が高くなるに伴い、企業は多数の複雑なライセンス契約を手動以外の方法で管理するという必要性に直面しています。自動インベントリツールを統合することにより、ライセンス契約をトラッキングし、これが正しく使用されているかどうかを確認できます。
- サービス契約：AssetCenterでは、サービス契約（メンテナンス、クリーニング、ASPなど）をトラッキングし、使用料を計算できます。とりわけ、契約のあらゆる条件（カレンダー、場所、依頼内容の種類、問題のタイプなど）を考慮に入れつつ、提供されるサービスの品質を管理できます。
- 法的措置：AssetCenterでは、企業のインフラストラクチャに関与する様々な法的措置（安全、公害など）の適用およびコントロールを容易に管理できます。

経理情報の管理

大変な努力を要する棚卸、経理業務も、真のポートフォリオ管理を導入すれば、コストの削減を図り、採算を取ることが可能になります。

- 固定資産：AssetCenterは、企業の固定資産を管理するために、会計ツールを補足します。棚卸が困難である資産（コンピュータ、携帯電話、工事用機器、建築など）も含めたポートフォリオの情報を正確に把握できます。また、AssetCenterは資産価値の情報を修正するために貴重なデータを提供します（加速減価償却、再評価）。AssetCenterはユーザ企業のみならず第三者に対しても正確な経理情報を提供することを可能にします。
- 税金：大半の国では、固定資産に税金が課されます。資産情報のトラッキングが不十分な場合、資産が破棄／紛失してから数年経過しても、経理情報が更新されてない場合があります。この結果、企業は支払義務のない税金を払うこととなります。
- 保険契約：保険契約も正確な棚卸と見積を要します。資産の詳細情報を正確に把握している企業は、保険会社との交渉時に存在しない資産を保険にかけるといった誤りを回避し、より有利な条件で保険を締結できます。

計画と制御

ポートフォリオ管理の利点は、以下に挙げる計画機能およびコントロール機能において最も顕著であるといえます。

- 原価会計：AssetCenterには、強力／完全な原価会計機能が搭載されています。社内の経費付替えや会社間の請求にとどまらず、顧客の請求をも処理します。経費付替え明細は、定期的に作成することもできれば（契約賃貸料、月々の消費）、イベントが発生した際に作成することもできます（購入、ヘルプデスクサポート、作業指示、再割当など）。また、必要に応じて経費付

替え明細を作成するためのパラメータを指定できます（契約の適用範囲、契約価格、作業指示の期間、請負人の給料、設置場所、部品、マージン）。

AssetCenterでは経費明細を正確にトラッキング/分担できるため、各ポートフォリオ品目のTCO（Total Cost of Ownership）を把握することが可能です。TCOには、取得価格に加えてその他の関連コスト（研修、メンテナンス、保険、アップグレード、ヘルプデスクサポート、引越しなど）が含まれます。

- 予算会計：AssetCenterは、複数企業の予算をトラッキングするための機能を備えています。企業の予算を立て、トラッキングするために最適な機能です。各予算に対して、適切なコストカテゴリーのリストおよび固有の期間区分（半期、四半期など）を指定できます。これにより、予算センタの業務の特質に適した方法で予算を管理できます。
- サプライヤの管理：ポートフォリオ管理は、AssetCenterユーザに豊富な情報（数量、価格、サービスの質、見積）を提供すると共に、これらの情報を正確に分析します。この結果ユーザ企業は、割引、遡及的割引、または契約条件などをサプライヤと交渉する際に、非常に有利な立場に立つことになります。このようにして得られる利益を取り上げるだけでも、ポートフォリオ管理の導入を正当化できます。
- 先行型のポートフォリオ管理：従来の会計ツールとは異なり、AssetCenterはポートフォリオのコストを分析、コントロールするにとどまらず、より先を見越した機能を提供します。

資産の取得方法を選択する（購入、リース）、ヘルプデスクをアウトソーシングするかどうかを決める、機器をアップグレードそれとも交換するかを選択する、製品の技術承認の種類を選択する、サービスの経費付替え（請求）の度合を決定する、などのあらゆる意思決定プロセスが容易になります。

また、予算の確立プロセスも大きく簡略化されます。例えば、ITポートフォリオでWindowsXPを新たに導入する場合、ライセンス、追加機器、コンピュータの交換、ソフトウェアのアップグレード、研修、下請け、作業時間などさまざまな要素を考慮に入れつつ、導入コストを容易に評価できます。

情報システムにおけるポートフォリオ管理

AssetCenterは、あらゆるユーザ企業の情報システムに容易に順応できるアプリケーションです。

適用範囲

ユーザ企業は、事業内容とニーズに応じて、情報システムのいずれの分野でAssetCenterを適用するかを決定します。

- インフラストラクチャ管理：AssetCenterは主に企業のインフラストラクチャ（もしくはITインフラストラクチャなどの一部に限る）を管理するために使用されます。この場合AssetCenterは、ERPタイプのソフトウェア（SAP）などを基にした管理システムや生産管理システムを補足する形で用いられます。

予算のトラッキング、発注の編集、請求書の記録などの機能は、AssetCenterで処理することもあれば、他の情報システムで処理することもあります。
- サプライチェーン：ユーザ企業の中には、AssetCenterのカatalog機能および調達サイクルを利用する企業があります。このような企業は、機器、消耗品、サービスそして原材料などの購入をAssetCenterで管理します。
- 生産管理：顧客にインフラストラクチャを提供することが経営活動であるセクターでは（不動産、ファシリティマネジメント、サービスのアウトソーシング、地方自治体など）、生産 / 請求管理システム全体でAssetCenterが使用されます。

管理レベル

すべてのポートフォリオ品目の重要度が同一であるわけではありません。特に、企業経営では最も大きな利益が重視されます。以下の事項を考慮に入れて、ポートフォリオ品目の管理レベルを決定します。

- ポートフォリオの規模：資産数が多ければ多いほど、正確な管理が必要になります。従って、ITコンサルティング企業がそのIT資産の管理を重視するのに対し、タクシー会社は保有する車、不動産会社は不動産を重視します。
- 資産の複雑さ：IT機器などの複雑で変化が激しい資産を管理するには、購入や棚卸などのライフサイクルのあらゆる過程を通して適切なソリューションが必要です。資産内容が複雑になればなるほど、これに比例してAssetCenter機能は資産管理により大きく貢献します。
- 管理の複雑さ：例えば、契約またはリースの対象となる資産を所有する場合、これをデータベースで管理する必要がある場合もあります。これは、不要なコストの発生（紛失、未許可の移動、契約の自動更新）を避けたり、リース会社が発行する複雑な請求書を適切に管理したりするためです。管理プロセスが複雑になるにつれて、AssetCenterのポートフォリオ管理が不可欠になります。

補足ソリューション

AssetCenterは、ペレグリンシステムズが提供する様々なソリューションと共に密接に統合されています。これらのソリューションは、各々の分野においてベンチマーク製品と見なされています。

- 特定用途のポートフォリオ管理：テレコミュニケーション、車両、一般サービス
- インベントリ：バーコード、コンピュータ、ネットワーク
- システム管理：リモートコントロールなど
- ナレッジベース
- ヘルプデスク管理
- アプリケーションの統合
- フレームワーク
- その他

上記のソリューションの詳細についてのお問い合わせは、ペレグリンシステムズ社窓口までお寄せください。

統合

AssetCenterは、情報システムの統合ツールを提供します。例えば、インポート、出力、ワークフロー、API、およびペレグリンシステムズの統合製品などが挙げられます。また、現在の市場における特定の主要製品用に、パッケージ製品も存在します。

AssetCenterの適用範囲、企業が使用する他のアプリケーション、そして企業の意向に応じて、統合点は異なります。

- リポジトリのオブジェクト（従業員、コストセンタ、サプライヤなど）
- 未支払の請求書
- 固定資産
- コスト会計
- 請求書
- 予算
- 発注
- 受領
- 生産管理
- その他

AssetCenter専門の経験豊富なコンサルタントが、必要な統合点の優先度を決定し、統合を導入するお手伝いをすることも可能です。

3 | 機能アーキテクチャ

本章では、AssetCenterの基盤となる原則を説明します。

アプリケーションの構成

AssetCenterモジュール

AssetCenterは、複数のモジュールから構成されており、各モジュールはポートフォリオを詳しく記述する共通のリポジトリを共有します。リポジトリには、以下の情報が含まれています。

- 資産に関連する情報（会社、組織図、場所、在庫など）のノーマンクレチャ
- 階層構造で分類され、属性（機器、コンピュータ、インストール済ソフトウェア、消耗品など）を基にして作成されるポートフォリオ品目のモデル
- モデル、および割当や相互関係に関する情報にリンクするポートフォリオ品目自体
- 依頼、予約、欠勤などの企業運営に関する情報

また、AssetCenterモジュールは以下に挙げる一般的な機能も共有します。

- データベースエンジンから独立したメタSQL言語であるAQL。AQLは、DDLよりも強力なデータベースディクショナリを有効に利用し、コンパクトで強力なシンタックスを提供します。
- データへのアクセスの制御と制限
- テキストソースまたはODBCからのデータのインポート
- タスクの実行を段階的にお手伝いするウィザード機能
- カスタマイズ可能なスクリプト：整合性規則、デフォルト値、自動化アクション、整合性チェック、トリガなど
- 管理プロセスの自動化を図るワークフロー機能
- 変更事項の履歴の保持。これはクライアントが指定する条件に応じて、各フィールドごとに定義できます。
- 関連書類の管理
- その他

上記の共有機能を基盤として、以下のAssetCenterのモジュールは設計されています。これらのモジュールの中には、特定の機能を共有するものがあります。

- **ポートフォリオ**：ポートフォリオモジュールでは、ITテクノロジーの管理機能が充実しています。例えば、ソフトウェア管理、相互接続の管理、IT機器およびテレフォニーの技術データ、オプションモジュールであるリモートコントロール機能との統合、作業グループの構成と業務用カレンダー、作業指示の管理、ニュースの配信、などの機能が挙げられます。当然のことながら、ペレグリンシステムズのIT管理ソリューション（コンピュータのスキャン、ネットワークのトポロジ、リモートコントロール、テレコミュニケーション管理など）と共にポートフォリオモジュールを使用できます。
- **調達**：調達モジュールは、依頼、見積、発注を経て、受領、返却そしてサプライヤの請求書の照合に到るまでの調達サイクルを管理するために使用されます。このモジュールは、充実したカタログ管理（複数のサプライヤ/バイヤのカタログ、依頼テンプレート、発注テンプレート、変換単位、割引の計算、オプション、会計など）を基盤とし、外部カタログとの統合機能（製品の分類コード）をも提供します。

調達モジュールには、在庫管理も含まれます。在庫管理の機能により、受領品を依頼者用に自動的に予約したり、発注点を下回った品目用に補充依頼を作成したりできます。

- **契約**：契約モジュールでは、あらゆる種類の契約（リース、メンテナンス契約、保険、ASPサービスなど）を管理できます。契約に関する情報（契約当事者、目的、契約期間、条件、適用範囲）を記録し、関連イベント（作業指示、ヘルプデスクチケット、発注など）やコストを関連付けます。アラームを使って、契約の更新や満期を管理することもできます。

特定の種類の契約用の機能も提供されています。例えば、契約延長の管理、リース資産の購入/返却の管理、アプリケーションサービスのユーザアカウントの管理用の機能が備わっています。

さらに、契約モジュールをファイナンスモジュールと共に使用することで、あらゆる計算方式で賃貸料を計算できます。この計算は、サプライヤが請求書を発行するために便利でもあれば、顧客が受け取った請求書を照合するためにも便利です。

- **ファイナンス**：ファイナンスモジュールでは、経費明細、金額の換算、税金などの情報を管理できます。固定資産の減価償却の計算、経費付替えシステムの管理、予算のトラッキングなどを行えます。

ファイナンスモジュールは、契約モジュールで契約賃貸料を計算するために補足的に必要なモジュールです。

- **ケーブル**：ケーブルモジュールは、建物のケーブル、パッチ、資産間の接続を精密に管理するための専門モジュールです（必要に応じてペアまで管理できます）。

ケーブルモジュールは、特にチームとそのカレンダーを管理し、作業指示の作業順を指定し、リアルタイムで情報を配信するために使用されます。

- **管理**：管理モジュールは、AssetCenterのセットアップ用ツールです。

外部ツール

以下の外部ツールは、AssetCenterモジュールを完全化するために設計されています。

- **AssetCenter Server**は、AssetCenterの使用に不可欠なバックグラウンドタスクを実行します。例えば、同期化ワークフロー、複雑な計算式、データのパーズ、外部インタフェースの管理（infra Connect.It!参照）、自動的な接続解除、アラームなどの機能が備わっています。AssetCenter Serverは特に、AssetCenterのライセンスを管理します。
- **AssetCenter Database Administrator**は、データベースを管理し、データベースの設定を行うために使用されます（接続、初期化、テスト、データベースへのテーブル、フィールドおよびリンクの追加、画面のカスタマイズ、マイグレーションなど）。高性能なグラフィカルインタフェースは、データベース構造全体（テーブル、フィールド、デフォルト値、整合性規則、関連画面など）を容易にナビゲーションできるよう設計されており、最適な学習/分析ツールとして用いられます。

統合ツール

AssetCenterは、外部アプリケーションとの統合を助ける一連のツールを備えています。

- **Connect-It!**は、AssetCenterとあらゆる外部アプリケーション間の統合シナリオを容易に作成、テスト、導入、管理（例外の処理など）します。

- シンプルで高性能な出力ツール。ユーザフレンドリなインターフェースを使ってクエリ、テキストファイルおよび使用可能なデータベースのSQLビューを作成するのに便利です。これにより、コントロールパネルやレポートを作成できます。
- APIは、セキュリティや整合性規則に従いつつAssetCenterを異なる言語で書かれた外部アプリケーションに統合するために使用されます。
- ODBCドライバは、使用するデータベースに関係なく、整合性セキュリティ層とインターフェース層を経由して、AssetCenterデータベースに読取り専用モードでアクセスするために使用されます。
- クライアントとサーバとしてのDDEのサポート

カスタムマネジメント

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の管理モードを柔軟に指定できます。この結果、ユーザはポートフォリオの一貫性を保ちつつ、各品目に適した管理レベルを定義できます。また、数十年のライフサイクルを持つ資産から、椅子のロットの管理またはプリント用紙の在庫に到るまでの幅広い品目を管理できます。

単一のポートフォリオ、複数の管理モード

AssetCenterでは、以下の3つの管理モードを適用することにより、ポートフォリオの均一的な全体像を保持することが可能です。

- 個別管理：高価値の資産を個別に識別、トラッキングします。これは、従来の資産管理に相当する管理タイプです。
- ロット別の管理（一括管理）：個別管理と非個別管理の中間点に位置する管理タイプです。この管理モードでは、複数の品目がロット単位で管理され、共通のID情報を共有します。ロットに含まれる品目は、ロット内では一括して取り扱われますが、そのロット以外の品目とは別のものとみなされます。
- 非個別管理：従来のサプライ品管理に類似しています。この管理モードでは、モデルのみが指定されており、モデルに対応する品目は、完全に交換可能です。

管理上の理由から（運用、メンテナンス、セキュリティ、会計など）、最低限のトラッキングを必要とする品目の属性があります（少なくともロット単位で管理が必要、時には個別管理が必要）。これは、製品に対応するモデル用の属性のレコードで指定します。これとは対照的に、個々の品目に加えて、ばら売りの材料なども管理できます。

管理モードの実施

上記の管理モードを実施するには、以下の2つのリレーショナルテーブルを基盤とします。

- ポートフォリオ品目のテーブル：このテーブルのレコードは、特定のモデルを基にした特定の数の品目が特定のコンテキストで（設置場所、ユーザ、コストセンタなど）存在することを記録します。
- 資産のテーブル：このテーブルは、個別管理の資産または一括管理（ロット別）の資産の情報を記録します。資産テーブルのレコードは、そのレコードに固有のタグにより識別されます。

管理モードに応じて、データの物理構造が異なります。

- 個別管理の資産の場合、資産テーブルとポートフォリオテーブルの各々にレコードが作成されます。ポートフォリオ品目のレコードで示される数量は、その単位で表記されています。
- ロットの場合は、1レコードが資産テーブルに作成され、1つまたは複数のレコードがポートフォリオテーブルに作成されます。
- 非個別管理の品目の場合、ポートフォリオテーブルのみにレコード（「資産の孤児」レコード）が作成されます。

ユーザインタフェースでは、上記の2テーブル間の複雑な関係を簡略化する統合ビューが、使用可能になっています。

適用範囲

上記で説明した3種類の管理モードを使用することにより、AssetCenterの適用範囲が従来の資産管理に比べて大きく拡張されました。新たに管理できる品目の例は以下のとおりです。

- 個別に管理するとコストがかかり過ぎる電話機や備品などの低価値の資産
- 使用期限が特定された腐敗しやすいサプライ品
- 技術情報のトラッキングを要するサプライ品
- LIFOやFIFOなどの在庫評価手法を要するサプライ品
- その他

AssetCenterの設計の最大の利点は、上記の管理モードが完全に統合されている点にあります。リソースの割当または資産情報の管理という観点のいずれからでも、資産、ロットおよびサプライ品の全体像を均一化できます。特に、一品しか含まないロットと個別管理の資産を一貫性のある方法で管理できます。

また必要に応じて、同じ種類の資産に対して異なる管理モードを適用できます。例えば、リースしているキーボード1つを個別に管理し、他のキーボードは個別に管理しない、などと指定できます。

AssetCenterの管理方法を用いると、以下のようなあらゆるポートフォリオ品目を統一して管理できます。

- 資産
- アクセサリ
- インストール済ソフトウェア
- 消耗品と消費

各ポートフォリオ品目に対して適切な管理レベルを指定することにより、機械設備からプリント用紙に到るまでのさまざまなポートフォリオ品目を棚卸し、記述することが可能です。資産は、これを構成するコンポーネント（インストール済ソフトウェア、アドオンソフトなど）と共に一貫性のある方法で記述されます。

この結果、各品目の管理モードを前もって指定する必要がなくなります。資産、ロット、サプライ品は、その識別 / 管理方法のみで区別されます。モデルの最低限の管理レベルのみを指定する必要があるわけですが、これも後から必要に応じて調整できます。例えば、特定の機器が一般化すると共にその価格が低下すると、当初ほど厳密なトラッキングをする必要がなくなるかもしれません。この場合、管理モードを個別管理から一括管理、もしくは非個別管理に問題なく切り替えることができます。

ユーザインタフェース

AssetCenterのユーザインタフェースは、抜群の柔軟性と生産性を誇ります。各ユーザの専門分野やトレーニングのレベルに応じてカスタマイズすることができます。

ナビゲータ

AssetCenterのメニューに加えて、ユーザが最も頻繁に使用する機能（データへのアクセス画面、ウィザード、自動アクション、レポートなど）をツリー構造で整理するためのカスタマイズ可能なナビゲーションバーが、ユーザの作業を助けます。

グラフィカルインタフェース

AssetCenterのインタフェースは、ユーザが自然にかつ一貫性のある方法で、データにアクセスできるように設計されています。データベースのデータを閲覧するには、常に同期化されたリストと詳細で構成された画面を使用します。

画面のリスト領域ではテーブルのレコードが表示され、ユーザはこのリスト領域を以下のように柔軟に設定できます。

- リスト形式またツリー形式でテーブルを表示できる。
- 現在のテーブルの列、現在のテーブルにリンクされているテーブルの列、または特殊フィールドなどの様々なフィールドを表示するよう指定できる。
- 1つまたは複数の列で並べ替えを実行できる。
- フィールド値またはAQL言語で表記された検索条件を使ってレコードにフィルタを適用できる。
- 複数のレコードを同時に選択できる。
- その他

上記のカスタマイズ事項は、必要に応じて暫定的に適用することができます。テーブルのレコードは漸次読み込まれるため、テーブルのサイズに関係なくレコードを閲覧できます。

詳細画面は、レコードを表示、更新するために使用します。レコードはリストと同期化されているので（リストと詳細が同時に有効にされている場合）、複数のレコードを同時に選択して、共通の更新事項を適用することができます。

詳細画面は、ユーザインタフェースを通して同じ構成で表示され、共通機能（選択リスト、リンク先オブジェクトへのズームなど）が組み込まれているので、いずれのテーブルを使用するにせよ新たに詳細画面の使用を習得する手間がかなり省けます。また、詳細画面ではアクションボタンを使用して、コンテキストに応じて特定のアクションをトリガできるようになっています。

リスト領域と同様に、詳細画面でも必要に応じて表示モードをカスタマイズできます（タブの表示/非表示、タブの表示順、タブ/リスト形式での表示など）。

ウィザード

AssetCenterウィザードは、ユーザフレンドリなインタフェースを作り上げるのに不可欠な機能です。ウィザードではタスクの実行画面が定義され、ユーザは段階を追ってタスクを実行できます。以下の場合にウィザードを使うと大変便利です。

- 一回きりのユーザトランザクションで、データベースの複数のオブジェクトに同時に影響を及ぼす複雑なタスクを実行したい場合
- ユーザが普段頻繁に実行しないタスクを実行する場合
- あらかじめ定義された手順に従ってユーザがタスクを実行するよう制限したい場合

パラメータの設定

AssetCenterで行えるパラメータの設定は、アプリケーション自体で実行、テストできるという点で大変優れています。フィールドで右クリックするだけで、このフィールドを必須フィールドに変更したり、変更事項を保存する前に結果動作をテストした上で他のユーザのセッションにもこれを適用したりできます。パラメータを大きく変更する場合にのみ、外部ツールAssetCenter Database Administratorを使用する必要があります。

このようにパラメータ設定の可能性が極めて大きいため、AssetCenterはあらゆるユーザ企業のニーズに対応することができます。

データベースのカスタマイズ

外部ツールAssetCenter Database Administratorを使って、AssetCenterに新しいテーブルを追加できます。

AssetCenterでは、データベースのテーブルに補足フィールドやリンクを追加できます。新たに追加されたフィールド/リンクは、アプリケーション全体（特定の詳細画面、リスト形式のビュー、レポート、APIなど）で使用できるようになります。以下の3タイプの補足フィールドを追加できます。

- AssetCenter Database Administratorを使ってリレーショナルテーブルに列を追加できます。特に、タイプ、長さ、機能タイプ（例：金額値、割合、期間など）とターゲット（外部キー用）などのプロパティを指定できます。
- 任意管理項目フィールドを定義できます。これは、情報量の少ない列を実行するために奨励されます。任意管理項目フィールド/リンクは専用のテーブルの行（値ごとに1レコード）で実行されます。列とは異なり、使用中のデータベースに即時追加できます。ただし、機能面でいくらか制限が伴います（金額換算を行えない、リンクに制限がある、など）。
- AQL式またはBasic計算プログラムの結果として特殊フィールドを定義できます。特殊フィールドは、データベースには実際に格納されず、読取り専用モードで使用可能です。

ユーザインタフェースのカスタマイズ

AssetCenter Database Administratorを使って、ユーザプロファイルに応じて詳細画面を定義しつつ、AssetCenterのインタフェースを設定できます。Basicスクリプトを使って、コンテキストに応じてタブ、フィールド、ボタンが自動的に表示/非表示されるように設定します。この結果、インタフェースの能率と対話性を向上できます。

さらにウィザードは、宣言型構造とBasicコードを組み合わせた強力なモデルを基盤とし、AssetCenter内で設定することが可能です。

最後に、Get-ItやAPIなどの外部ソリューションを用いて、アプリケーションの外部から画面（特にWebプラットフォーム）を定義できます。

整合性規則

AssetCenterには、フィールド、レコードおよびリンクのレベルで整合性規則を定義できるという独自の特徴があります。以下に挙げる多種の規則を使用できます。

- 「妥当性規則」は、コンテキストに応じてフィールドやリンクが妥当であるかを指定します（妥当な場合は表示 / 使用可能）。例えば、「ユーザ」リンクは在庫に入っている資産用に妥当ではありません。
- 「フィールドの制約条件」は、フィールドまたはリンクが必須であると指定します。例えば、在庫中の資産のレコードでは在庫へのリンクが必須です。
- 「レコードの制約条件」は、レコードレベルで適用される整合性規則です。例えば、ポートフォリオから除却された資産のステータスには、「不適用」という値しか指定されません。
- 「レコード間の整合性」は、例えば資産のレコードに既存の経費明細が関連付けられている限り、このレコードを削除できないよう制約します。
- 「デフォルト値」は、フィールドおよびリンクに適用され、レコードの作成または複製時に使用されます。
- 「アクセス制限規則」は、インタフェースでフィールドまたはリンクを読み取り専用を設定します。
- 「履歴の自動生成」は、特定のフィールドおよび条件で使用できます。この規則をトリガすると、日付け、時間、変更者、そしてフィールド / リンクの変更前の値が履歴として専用テーブルに自動保存されます。

上記の規則は、BasicスクリプトとAQLクエリを用いてコンテキストのデータを考慮に入れつつ、容易に定義できます。

同期ワークフローを使用すると（[Infra参照](#)）、規則の定義と整合性の自動処理機能の可能性がより大きくなります。

アクション

AssetCenterの自動アクションは以下の内容を定義します。

- 複数のレコードを使用する、または複雑な計算を要するトランザクション
- ウィザードの記録
- 電子メールの自動送信

- レポートの作成
- 外部アプリケーションの起動
- DDEコマンドの生成

AssetCenter Database Administratorを使って、ユーザが画面で定義した状況依存ボタンにアクションを関連付けることができます。

ワークフロー

AssetCenterには大変充実したワークフローエンジンが搭載されており、以下の2種類の動作を同時にサポートします。

- 非同期ワークフローは、複数のユーザが介入する複雑なプロセスを定義するために用いられます。実行するタスクのリストが各ユーザに与えられます。このリストはワークフローのアクティビティが自動的に入力します。ユーザは自分のタスクリストからウィザードを直接起動し、タスクを実行したり、タスクの実行終了を通知したりできます。
- 同期ワークフローは、データベースの単一のトランザクション内で即時実行されます。

AssetCenterのワークフローエンジンの利用方法は無限に存在します。

- 非同期ワークフローは、企業のプロセス（発注の承認プロセスなど）を加速し、その信頼性の工場を図ります。
- 同期ワークフローは、複雑な整合性規則を実施するために使用します。例えば、ある場所のコストセンタを変更すると、この従属場所にもこの変更が適用されます。
- ワークフローは、あらゆる種類の処理作業を（計算、レポートの編集、外部アプリケーションの起動など）定期的に自動生成するためにも使用できます。このようなワークフローを使用すると、データベースを調べる、アラームをトリガする、無効なデータを消去する、自動インベントリを起動する、などの作業を行えます。

ワークフローは、データベースが変更された時に起動される場合と、一定の期間ごとに起動される場合とがあります。

レポート

AssetCenterは、統計を計算し、一覧表またはグラフ形式でレポートを作成するツールと共に提供されています。

- 特殊フィールドを用いると、BasicスクリプトとSQLシンタックスを共に使用しつつ、データベースのあらゆるオブジェクトに関する複雑な統計を計算で

きます。特殊フィールドは、普通のフィールドと同様にリストおよび詳細画面に（読取り専用モードで）挿入できます。

- リストは設定可能であるのに加えて、ツリー構造で構成されているため、容易に対話的な画面を作成できます。リストをスプレッドシートやその他のアプリケーションに手動で簡単にコピーすることも可能です。
- ユーザが定義する統計やグラフを（場合によっては定期的に更新しつつ）表示するようウィザードを定義することができます。
- 内部書式ジェネレータは、簡単なレポートを数秒で作成します。多数の標準書式がAssetCenterと共に提供されています。
- AssetCenterでは、多数の標準レポートを実行するためのCrystal Reportsジェネレータ（ランタイム）が完全に統合されています。Crystal Reportsのライセンスを所有する場合、ユーザはAssetCenterで自分自身のレポートを作成、実行できます。
- AssetCenterに付属のODBCドライバによって、あらゆるレポートやテーブルのジェネレータ（特に、CognosおよびBusinessObjectsのソリューションを使用する分析モデル）を使用できます。

セキュリティ

AssetCenterのセキュリティモデルは、IT市場で最も完成度の高いものの1つと見なされています。各ユーザにプロファイルが割り当てられ、このプロファイル自体が以下の3つの軸を支えにして定義されています。

- 「ユーザ権限」は、ユーザがアクセスできる情報をその属性に基づいて定義されます。例えば、人事部の責任者に従業員の社会保障番号へアクセスする権限を与えたり、業務マネージャにはこの権限を与えなかったりできます。
- 「アクセス制限」は、情報の帰属先に応じて、アクセスできる情報を定義します。例えば、ある諏訪工場のユーザに、このサイトで使用するレコードへのアクセス権限を許可しますが、東京本社で使用するレコードへのアクセスを禁止します。あらゆる条件を使って、各ユーザまたはユーザグループがアクセスできる情報をフィルタできます。
- 「機能権限」は、ユーザがデータに対して使用できる機能を定義します。例えば、許可されている従業員のみが発注書を発行できます。



II | AssetCenterの導入

パート

4 | はじめに

このガイドの内容

本ガイドでは、AssetCenterプロジェクトを成功させるためにペレグリンシステムズが推奨する原則と方法を記述します。

AssetCenterのインプリメンテーション方法に、これが標準の方法と言えるものはありません。これは、AssetCenterの適用範囲が大変広く、カスタマイズの柔軟性が高いためです。従って、絶対的な導入方法を提案するのではなく、背景に応じて適用する原則を例を用いて述べていきます。

- 導入方法の骨組みとなる原則。
- 典型的なアンケート、チェックリスト、スケジュールなどの実践的な情報。

対象読者

本ガイドはまず、AssetCenterの最初の導入時に参照しますが、適用範囲や使用機能を拡張する場合にも参照すると便利です。いずれの場合にせよ、本節は以下の読者を対象としています。

- 総務部、情報技術管理課、企業内のユーザの代表者などの意思決定者。

- プロジェクトの内部または外部の担当者、スケジュール、トラッキング、QAなどの作業実行者。
- パラメータ設定、ユーザ教育などのプロジェクトの主要リーダー

本ガイドの使用方法

本ガイドをお読みになる前に、AssetCenterのバージョン4.xの概要（適用範囲、機能、用語、全体的なアーキテクチャ、カスタマイズの可能性など）を把握しておいてください。このためには、AssetCenterの一般的なユーザガイドをお読みになるようお勧めします。

本ガイドは、ユーザ企業がAssetCenterプロジェクトを開始するにあたり、その企業に適した導入方法を計画するために書かれています。一般的な原則に基づいて、企業の実態、目的、期限などを考慮に入れつつ、シナリオを明らかにしていきます。

プロジェクトの大小

AssetCenterは、企業の定義する管理規則に従いつつ、何千人ものユーザが一貫した方法で数百のプロセスを実行することを可能にします。これと同時に、AssetCenterは柔軟性のあるアプリケーションであるため、小規模な企業内の限られたチームのみが2、300の資産を管理するためにも用いることができます。

当然のことながら、大規模な導入プロジェクトと小規模なそれとでは、導入方法が全く異なります。本ガイドで説明する導入方法は、大規模なプロジェクトを基盤としているため、小/中規模のプロジェクト用には、おおげさまたは複雑すぎる印象を与えるかもしれません。このため、小規模のプロジェクトの責任者には、間違いを避けるための参考情報として本ガイドを参照し、必要な情報のみを適用するようお勧めします。

プロジェクトマネジメントでは、厳密さが成功の鍵となります。問題を適宜に処理しないと、後に再発生したり悪化したりし、時にはこれがプロジェクト全体の期限やコストにまで影響する場合があります。

5 | 一般的な概念

プロジェクトの構成

AssetCenterプロジェクトの様々な段階とタスクについて記述する前に、プロジェクトの適切な構成について説明します。

運営委員会

運営委員会は、プロジェクトを通して指導的な役割を果たします。プロジェクトに關与する主要部署を代表する意志決定者で構成され、プロジェクトの目的、適用範囲、期限を定義します。

また運営委員会は、プロジェクトチームとの合同会議において指示を取ります。プロジェクトのコーディネーションにおいて最も高いレベルに位置し、プロジェクトの舵取りを担当します。運営委員会はプロジェクトの主要段階が終了するたびに、または仲裁が必要な場合に決定を下します。

プロジェクト委員会

プロジェクト委員会は、プロジェクトの実際の作業を指揮します。プロジェクトディレクターの指揮下で、プロジェクトの実際の作業（分析、パラメータの設

定、研修、マイグレーション、導入)をコーディネートします。またプロジェクトを通して、プロジェクトのトラッキング、アウトソーシングの管理、QA、コミュニケーションなどの役割も果たします。運営委員会に作業の進行状況を報告し、チームの所轄範囲を超える問題に直面した場合は運営委員会に解決を委ねます。

プロジェクト委員会のタスクの例は、以下のとおりです。

- プロジェクトを機能別サブプロジェクトに分割する。
- スケジュールとタスクの分担を定義し、プロジェクトのトラッキングを管理する。
- プロジェクトチームを構成する(チームメンバーの構成、コミュニケーション手段、研修など)。
- アウトソーシングを管理する。
- プロジェクトのQAを担当する。プロジェクトの品質規格を定義し、プロセスの実行規則が守られていて、プロジェクトの結果(文書、プログラム、データなど)が品質規格に準拠しているかどうかを確認します。
- 運営委員会および会社全体とのコミュニケーションを図る。

プロジェクトチーム

プロジェクトチームは、プロジェクト委員会の指揮下で、新しいシステムを実際に実施します。プロジェクトチームの構成は、プロジェクトが進行すると共に必要に応じて変化していきます。プロジェクトチームは、一般的に以下のメンバーまたはチームで構成されます。

- 機能別のサブプロジェクトの責任者とそのチーム
- マイグレーションの担当チーム
- モデルの責任者。機能別の担当者が設定する様々な設定要素をコーディネートします。部分的に実施される設定要素を全体的に監視し、その整合性を確保します(データ、画面、ウィザード、ワークフローなどの重複要素の検出、整合性規則間の競合の検出など)。モデルの責任者は、鍵となる役割を果たすため、この役割が欠けている場合、AssetCenterの導入過程で多数の問題が発生する起因となります。
- テストチーム。テスト用のプラットフォームを実施し(テストゲーム、適切なソフトウェアなど)、スケジュールに従ってテストを実行します。
- セキュリティの責任者。ユーザプロファイルを定義し、適切なアクセス権限を実施します。
- ユーザ教育の担当チーム。教育を要するユーザの数に応じて、教育担当チームの規模は異なります。このチームの一部は、AssetCenterの導入後にユーザサポートを担当する従業員から構成されます。これには2つの利点があります。まず第一に、ユーザサポートの担当者自身の研修を営利化できます。次

に、ユーザとサポートチームとのコミュニケーションを促すことができます。

- 技術チーム。プロジェクトの実行に必要なプラットフォームとネットワークを準備します。

サブプロジェクトの責任者。プロジェクトチームと協力して、スケジュールのトラッキングとサブプロジェクトの計画を担当します。

機能別サブプロジェクト

一般的にポートフォリオ管理のプロジェクトでは、以下のような機能別のサブプロジェクトを区別する必要があります。

- カタログ
- 調達と在庫管理
- 割当て
- メンテナンス
- 予算管理
- コスト会計
- 棚卸と固定資産の管理
- その他

サブプロジェクトの数およびその内容は、ユーザ企業のニーズとプロジェクトの規模に応じて異なります。

プロセスを再定義するようなプロジェクトでは、一般的にサブプロジェクトを構成する必要があります。重要なプロジェクトの場合は、パラメータの設定時にもサブプロジェクトを構成しなければなりません。この場合、システム全体の整合性を確保するために、厳密にサブプロジェクトを構成します。

プロジェクトの段階

ITソリューションを新たに導入する場合、特定のタスクを実行する必要がある訳ですが、その内容はプロジェクトの規模と複雑さに応じて大きく異なります。

一般的にITプロジェクトはいくつかの主要段階から構成されています。ある段階が終了すると、次の段階に移行する前に、運営委員会の会議を開いて結果報告を行います。プロジェクトの段階は順々に進めていく必要がありますが、以下の点も念頭に置いておいてください。

- 各段階を構成するタスクは、多くの場合並行して実行することができます。

- タスクの中には、前の段階ですでに実行開始できるものもあります。特にパラメータの設定などは、詳細調査の時点から実行したいという場合があります。

以下では、順々にプロジェクトの段階と各段階において実行するタスクについて説明します。

予備調査

予備調査は、プロジェクトの創造過程と言ってもよいでしょう。企業のニーズに答えるための実施シナリオを定義、評価します。最終的には、プロジェクトを実行するか否を決定します。実行すると決定した場合は、期限を指定し、必要な予算を割り当てます。

初期化

プロジェクトを初期化するとは、プロジェクトを通して適用されるロジスティック、スケジュール、品質規格などの基盤を定義することを意味します。

初期化段階は、一般調査段階に直接展開します。

一般調査

一般調査段階における目的は、以下のとおりです。

- 適用範囲や機能範囲などのプロジェクトの内容を特定する。
- 目的を定義する。
- 使用するソフトウェアを選択する。
- プラットフォーム、データベースエンジンなどの技術的な要素を決定する。

最後に運営委員会の会議を開き、この段階の結論を承認します。

詳細調査

詳細調査の段階では、新しいシステムを細かく特定します。ユーザの代表者がこの段階における決定事項を承認してから、最終的に運営委員会が承認します。

実行

実行段階では、上記の段階で定義された情報に従って、情報システムを構築します。特に、プラットフォームおよびソフトウェアの設定を行い、必要に応じて開発を行います。また、テストバッチリを実行することにより、結果の質を確認し、実際に使用できるかどうかを確認します。

当然のことながら、詳細調査の段階で、AssetCenterにおけるパラメータ設定の容易さを利用しつつ、特定のパラメータ設定や開発を行うよう強くお勧めします。いずれにせよ、システム全体の整合性を確保するためにも、「一般から特定へ」という論理で調査を進めてゆくべきです。

導入

導入段階では、ユーザが新しいシステムの使用を開始します。この段階は、不具合の発生を避けるために、細心に準備しなければなりません。

6 | 導入方法の詳細

本章では、プロジェクトの段階について詳細に説明します。また、重要な段階で指針として参照するための基礎情報（決定基準、チェックリストなど）も記述されています。

予備調査

この段階は、本章で説明する導入方法の最初の段階に当たります。

プロジェクトの目的および適用範囲を定義する

プロジェクトの目的と適用範囲を明確にし、できる限り早く関連者の了解を得る必要があります。この段階では全般的な目的と適用範囲を定義し、プロジェクトの一般調査の初期段階でさらに詳細に定義します。

プロジェクトの一般的な目標を定義する

プロジェクトの目的と同様に、プロジェクトで達成すべき目標も明確にしなければなりません。また、プロジェクトの一般調査の初期段階でさらに詳細に定義します。

評価

プロジェクトのコスト、作業量、および期限をおおまかに見積もってから初めて、新システムの導入を決定します。

決定

予備調査の段階で、プロジェクトを実施するか否かが決定されます。プロジェクトを実施すると決定された場合は、以下のことを行います。

- プロジェクトの目的と目標を確認する。
- 予定達成期限と企業の意向と予算に適した期日を選択する。
- プロジェクトの各段階ごとに人材および予算を割り当てる。運営委員会を構成する。
- プロジェクトの実施が決定されたことを企業内の関連者に通知する。

初期化

企業リソースの集結

AssetCenterの導入のように企業の多数の役職に影響を及ぼすプロジェクトを成功させるには、会社全体を動員することが必須です。ITプロジェクトの成功の鍵は、技術および機能面でのリソースを集結することにあります。プロジェクトの初期化では、リソースを明確にしこれを確保します。

プロジェクトのスコープに応じて、企業の以下の部署の代表者がプロジェクトに関与しなければなりません。

- 情報システム部
- 製造部
- 総務部
- 購買部
- メンテナンス課

- 装備部
- 経理課
- 経営管理部
- 文書課
- その他

プロジェクトチームの構成

タスクに応じて、プロジェクトチームの構成メンバーと規模を決定します。プロジェクト委員会が、プロジェクトチームの構成を担当します。

企業側で、内部リソースを使用しないと決定する場合は、プロジェクトの一部または全体をアウトソーシングすることも可能です。ペレグリンシステムズは、提携パートナー企業と共にアプリケーション導入をお手伝いします。経験豊富なコンサルタントが、プロジェクトの各過程において（構成、分析、パラメータの設定、研修など）、単発の派遣または長期に渡るアウトソーシング契約という形でコンサルティングサービスを提供します。

企業が、プロジェクトの実現に質、量共に十分なリソースを動員できるが、機能/技術分野のスペシャリストのサポートを受けるといってもあり得ます。スペシャリストは、プロジェクトチームをサポートし、ノウハウを伝達します。プロジェクトの達成期限、プロジェクトの結果および企業の独立性という面でプラス効果があるため、スペシャリストのサポートを利用するよう強くお勧めします。

当然のことながら、一般調査の段階で選択するソフトウェアに直接関連する重要な評価に関しては、ソフトウェアを選択して始めて適切なリソースを明確にします。

コミュニケーション

プロジェクトを通して、コミュニケーションに重点を置かなくてはなりません。

将来のユーザとのコミュニケーションが大変に重要です。特に、AssetCenterは各ユーザグループのニーズに答えられるという点を明示し、AssetCenterの多機能性と柔軟性を強調することにより、各ユーザの協力を促進します。

- 意志決定者とタスク実行者間のコミュニケーション。
- プロジェクトチーム内におけるコミュニケーション。このコミュニケーションは、プロジェクトの期日が近づくにつれより大切になります。
- その他の部署、従業員へのコミュニケーション。

計画を立てる

実行するタスク、作業量、およびタスクの実行期間などを定義します。プロジェクトが進行すると共に、以下の要素を考慮に入れつつ計画をより詳細に指定します。

- 選択されたソリューション
- プロジェクトの目標と期限
- リソースの可用性と有用性
- 企業における制約（一時的に業務が増加する期間など）

計画を詳細に立てるかどうかにより、計画の質とトラッキングの信頼性が決まります。サブプロジェクトのタスク1つ1つの内容とスコープを正確に定義して初めて、プロジェクトを確実に進めることが可能になります。

QA基準

QA基準は、以下の内容に適用されます。

- プロジェクトの構成：役割の明確な定義、意思決定過程、会議スケジュール、依頼および決定プロセスの定義
 - プロジェクトのトラッキング：責任、トラッキングの度合と頻度など
 - 標準文書：一貫性、フォーマット、分類、機密性など
 - パラメータ設定と開発：マニュアル、プレゼンテーション、コメントなど
- QA基準の中庸が存在しますが、これはプロジェクトディレクタが決定します。

一般調査

プロジェクトのスコープ

プロジェクトを導入する前に、当然のことながらその適用範囲（スコープ）を定義することが不可欠です。運営委員会が大枠を定義し、プロジェクトチームが詳細を決定します。導入の段階を区別し、適用範囲を拡張していくことが妥当と言えます。

ポートフォリオの範囲

ポートフォリオの範囲は、どのタイプの資産とサプライ品をインベントリ、トラッキングするかを定義します。これは、ポートフォリオ管理プロジェクトで不可欠な課題です。AssetCenterでは、3つの管理タイプを使用でき（「カスタム

マネジメント」の章参照)、あらゆる資産にかかる経費(IT機器、電話機器、車両、不動産、機械設備など)を細かく管理できます。これに加えて、派生的な条件(リース契約、メンテナンス契約、単価など)により制約されることがありません。

プロジェクトの範囲はAssetCenterの適用範囲に当たります。つまり、管理する資産のことを指します。

以下の条件に従って、範囲を定義します。

- 企業における資産の重要性：企業が資産の可用性と完全性を重視すればするほど、この資産を正確に管理する必要があります。
- 資産の複雑さ：例えば、設定する必要のある資産、大掛りなメンテナンスを要する資産、使用で危険を伴う資産などは適切な方法でトラッキングしなければなりません。
- 資産管理の複雑さ：例えば、ファイナンス契約の対象である資産や、利用者が頻繁に変化する資産は、厳密にトラッキングしなければなりません。
- 資産の量：ある特定のカテゴリの資産の数量が多ければ多いほど、手動管理が困難になります。
- 企業の志向と能力：資産管理とは、有利な投資ではありませんが、初期段階に努力を要します。

プロジェクトの範囲は、具体的に以下の複数の軸を中心に定義されます。

資産の属性

- 土地資産およびこれに類似する資産(土地、通路、道路など)
- 不動産(オフィス、工場サイトなど)
- 不動産用の設備(空調装置、エレベータ、ケーブル、水、電気など)
- 安全設備(ロック、IDカードのスキャナ装置、消火器など)
- アクセス手段(鍵、IDカード、ユーザアカウントなど)
- 支払手段(鍵、IDカード、ユーザアカウントなど)
- ケーブル(ライザ、水平ケーブル、成端場所、ワイヤリングクローゼット、フェイスプレートなど)
- 電話機器(オペレータサービス、PABX、リピータ、電話機、携帯電話、ポケットベルなど)
- ネットワーク機器(ハブ、ルータ、ファイアウォール、特別回線、Internet接続など)
- IT機器：メインフレーム、サーバ、クライアントサーバ、その他
- ソフトウェアおよびデータ(ライセンス、インストール、アプリケーションサービス、ユーザアカウント、電子メールアカウント、データベース、バックアップなど)
- 事務用機器(ファックス、プリンタ、コピー機など)
- オフィス家具(机、椅子、ファイリングクローゼット、金庫、冷蔵庫、電子レンジなど)

- 車両（社用車、営業用車など）
- 知的資産（特許、登録意匠、ライセンス、商標など）
- 工業機材（重機、機械装置、ロボット、荷役用機器、専門機器など）
- 供給品（消耗品、事務用品など）
- 原材料（砂、シリコンなど）
- その他

特定の管理の必要性

- 資産のトラッキング：固定資産、棚卸、被害対策など
- 特定のリスク：危険性、規則、契約条件、機密性、可用性、完全性、税金など
- 生産面での制約：メンテナンス、割当、ユーザサポートなど
- サプライヤのトラッキング：調達、管理の委任、情報システム管理など
- サービスの供給：第三者のアカウントの管理、メンテナンスやサポート
- その他

地理的位置

- 大陸
- 国
- 地域
- サイト
- その他

組織構成

- 業務
- 部署
- 予算センター
- その他

機能スコープ

機能スコープは、ポートフォリオ管理で実施するサービスの範囲を定義します。機能スコープは、アプリケーションの分野に応じて異なる可能性があります。

AssetCenterの補足ソフトウェアが持つ機能を機能スコープに追加します。また、AssetCenterと共に使用する既存のソフトウェアの機能も追加します。企業の管理システム内で、AssetCenterおよびその補足ツールをどのように位置付けるかが大変重要です。このためには、機能ドメインと従属ドメインをそれぞれ検討し、適切な管理モードとツールを決定します（例えば、ペレグリンシステムズの専用ソリューションAssetCenter、他のベンダのソリューション、既存のアプリケーションとの使用、自動化ツールを用いた管理、手動管理など）。

従って機能スコープは、情報システム内のその他のアプリケーション（経理、生産管理など）との統合点をも定義する必要があります。

以下では、ポートフォリオ管理の典型的な機能を簡単に記述します。これらの機能の中には、AssetCenterの補足ソフトウェアの使用を要するものがいくつかあります（ペレグリンシステムズ社のIDD、IRC、ServiceCenterなど）。またAssetCenterで特定の設定を行う必要がある機能もあれば、異なるカテゴリで同時に使用する機能もあります。

- 依頼：データの取得、コスト配賦、技術情報、標準セット、承認、トラッキング、依頼者に関する情報、統計など
- サプライヤの見積：データの取得（入力、EDI、オンライン）、裁定、履歴保持、統計など
- 発注書：承認、発行（郵便、電子メール、ファックス、EDI、オンライン）または別のアプリケーションへの出力、受諾、変更およびキャンセル、統計など
- 受領：発送のトラッキング、受領、サプライヤへの返却、請求書、統計など
- ファイナンス：ローン、裁定、契約の更新、賃貸料、買い取り、返却、経費付替え、統計など
- サプライヤの請求書：データの取得、データの照合、承認、税金、サプライヤの経理との統合、統計など
- バイヤ側の請求書：作成、入力またはインポート、承認、バイヤの経理との統合、変更、統計など
- 割当：予約、設置、研修、コスト配賦、移動、返却、ローン、転売/除却/紛失/盗難、統計など
- 在庫管理：見積、割当、自動再補充、期限の経過、予約、出庫、返却、統計など
- 固定資産：データの取得、減価償却の計算、割当、加速減価償却、再評価、値上がりと負の値上がり、統計など
- 棚卸：バーコードラベル、コンピュータやネットワーク機器の自動スキャン、除却、統計など
- セキュリティ管理：アクセス手段の割当、支払手段の割当、棚卸、返却、統計など
- 契約管理：データの取得、債務/賃貸料/返済、経費計算、割当、修正、期限アラーム、コスト管理、サービスの品質、統計など
- ユーザサポート：ヘルプデスクチケットのデータの取得、ナレッジベース、サービスレベル、エスカレーション処理、アラーム、リモートコントロール、経費付替え、統計など
- メンテナンス：依頼データの取得、ナレッジベース、割当、サービスレベル、エスカレーション、アラーム、顧客満足度調査、リモートコントロール、工場への返却、予防整備、アップグレード、作業指示、作業時間、部品、経費付替え、統計など

- ソフトウェア：ライセンス、ASP契約、インストール、ユーザ、棚卸、料金、アップグレード、研修、経費付替え、統計など
- リソース管理：時間帯、作業量、経費付替え、統計など
- 予算管理：準備、承認、トラッキング、変更、統計など
- コスト会計：コスト配賦、減価償却引当金、作業単位、統計など。
- ナレッジマネジメント：研修、検定、経験、割当、統計など
- 保険：見積、契約、保険金、統計など
- サプライヤ：マスターリース、リース契約、市場、サービスの品質、価格、値引きなど
- カタログ：データの取得（入力、インポート、EDI、オンライン）、技術承認、価格の承認、標準セット、統計など
- 品質保証：サービスの品質基準、顧客調査

当然のことながら、資産の属性に従って、上記の各機能の内容もしくは妥当性は異なります。例えば、建物のメンテナンスとコンピュータのメンテナンスでは、性質が全く違います。

共通のニーズ

ポートフォリオ管理では、以下の制約が共通して適用されます。

- 複数の会社
- 複数の通貨
- 複数のタイムゾーン
- 多言語
- 可用性
- セキュリティ
- 性能

プロジェクトの目標

一般調査では、以下の例で挙げるように、プロジェクトの目標を数量で表すよう努めます。

- 在庫中のIT機器：3%
- PCの購入依頼からその設置に到るまでの期限：就業時間で16時間
- サプライヤ価格よる利益：2%
- 作業指示の履行を記録するのにかかる時間：1分
- 車両の可用性：98%
- その他

アーキテクチャの選択

アーキテクチャの選択（プラットフォーム、データベースエンジン、アプリケーションサービスなど）は、一般調査における非常に重要な段階です。どのアーキテクチャを選択するかにより、プロジェクトの進行のみならずその結果をも左右します。アーキテクチャを選択するには、以下のタスクを実行しなければなりません。

- プロジェクトの技術基準の定義：オペレーティングシステム、ネットワーク、必要なソフトウェアアーキテクチャの種類、データベース変人、データの配分、レスポンスタイムなど
- プロジェクトの計画書の作成
- 入札
- ソリューションの評価

ソリューションを選択するとは、以下の条件を裁定することを意味します。

- 機能
- 柔軟性
- パラメータ設定またはプログラミングの負担
- 堅牢性
- 技術基準への準拠
- 永続性
- サービス関連のサプライヤの質と可用性

プロジェクトの範囲を定義し終わると、範囲に含まれる各機能に専用のソリューションを選択します。ドメインや機能に応じて、ソリューションは以下のように異なります。

- ネイティブ機能の使用
- 専門機能の設定
- 専門製品（新製品または既存製品）との併用
- 補足アプリケーションの開発
- 既存ソリューションの保持
- 手動プロセスの適用

詳細調査

詳細調査の段階では、ユーザの代表者の協力が大いに必要です。プロジェクトの最終結果の質は、代表者の貢献にかかっていると見えます。

プロセスの再定義

AssetCenterのようなソフトウェアを最大限に利用するには、新たな可能性を考慮にいれつつ、既存プロセスを再検討し改善しなければなりません。このような管理プロセスの見直し（機能分析）には、各分野の責任者の協力が欠かせません。

企業の情報システムにどのような影響が与えられるのかを、プロセスごとにそして一般から詳細へという順で分析します。具体的には、以下の内容を検討することを意味します。

- 責任
- 業務の分担
- 業務の内容
- 管理 / 検証プロセス
- 参考文書：書式および手続き

これにより各業務で作成、使用、処理される情報を正確に指定できます。

機能分析を詳細に行うことにより、ソリューションのアーキテクチャの基盤（パラメータ設定、インタフェース、補足開発など）を築くことができます。

承認

再定義されたプロセスは、ユーザの代表者により承認されなければなりません。

AssetCenterでは、パラメータを容易に設定できます。この段階から既に、小規模な設定（追加フィールド、ビュー、ウィザード、ステータスなど）を行い、ユーザから承認を得るとよいでしょう。この結果、実行段階の準備をできるだけ早期に行えるだけでなく、あいまいさや誤解を避けられるという大きな利点があります。

テストの考案

ディベロッパがより早くテストを入手できるようにするには、詳細調査段階からテストを考案し、データソースおよび特定の設定を指定する必要があります。

技術調査

ここでは、サーバとネットワークに関する必要性を検討し、適切なものを選択します。

実行

実行段階では、調査段階で定義されたシステムを構築します。

再度強調しますが、AssetCenterではパラメータを容易に設定できるため、詳細調査の段階からすでに実行できる設定がいくつかあります。システム全体の視野を失うことがないように注意する限り、詳細調査の段階でのパラメータの設定を制限する必要はありません。

テストの実行

以下の2つのタイプのテストがあります。

- システムの堅牢性をテストするための機能テスト
- リスポンスタイムをテストするための性能テスト

テストは、できる限り早い段階で設計する必要があります。これは、ディベロッパチームが自分の仕事の質を検証するためのテストを早期そして容易に実行できるようにするためです。一般的に機能テストは、性能テストよりも早くに必要となります。

より効率的にテストを実行するためには、ユーザ代表者がこれに積極的に参加する必要があります。特に以下の点に注意を払います。

- テストの代表性。機能テストでは特に、体系化された方法であらゆるデータの設定を、頻繁に使われるものから稀にしか使われないものまで、確実にテストする必要があります。
- テスト全体の一貫性。一貫性がある始めて、統合テストの妥当性が保証されます。

パラメータの設定

AssetCenterのパラメータ設定では、以下の内容を設定します。

- 企業が使用する参考ノメンクレチャ（組織構造、コストセンタ、予算センタ、コストカテゴリなど）
- 企業が管理したい情報
- 企業が適用したい特定のデータ整合性規則（コントロール、同期など）
- 入力作業を容易にするための手段（デフォルト値、ウィザードなど）
- イベント（新情報、更新情報、期限など）
- 前定義のプロセス（ワークフロー）
- データへのアクセス規則（ユーザおよびプロファイル）
- コントロールパネル（編集ステータス、レポート、アラーム）

インタフェースの定義

企業の情報システム内でAssetCenterを統合するためのインタフェースを作成するとは、大変に微妙な作業です。この作業の成否は、機能分析の段階で定義したプロセス、特に情報ソースの定義の厳密さにより完全に左右されます。インタフェースを作るには、場合に応じて以下のツールを使用します。

- 標準ゲートウェイ。標準ゲートウェイを使用すると、AssetCenterとその他の技術製品（例：ペレグリンシステムズのInfraTools）を統合できます。
- その他の管理製品（ペレグリンシステムズのServiceCenter）を含んだ標準インタフェース
- EAI（Enterprise Application Integration）ツール。堅牢で柔軟なインタフェースを築くために大いに貢献します（例：Peregrine Integration Platform）。

特定のインタフェース（従業員、コストセンタなど）は、なるべく早めに動作できるようにします。この結果、アプリケーションの導入前の最後の段階で必要なノーマンクレチャを取得する余裕ができます。

様々な開発

複雑なプロジェクトでは、補足的な開発を行う必要がある場合があります。これは、AssetCenterを用いて、その無限な柔軟性を利用して行うこともできれば（データベース構造の充実化、画面の追加など）、AssetCenterを外部アプリケーションに統合するためにAPIを使用することにより行うこともできます。このようなサブプロジェクトは、開発に伴うリスクを十分に考慮に入れつつ、他のプロジェクトの実行と同じ手順で実行します。

技術的な文書の作成

システム全体を保持するためには、プロジェクトで実行したパラメータ設定および開発を技術文書に記述することが不可欠です。

AssetCenterの場合、AssetCenter Database Administratorが自動的に、インタラクティブで能率的な文書を提供します。AssetCenter Database Administratorには、いくつかの出力ツールが搭載されているため、中央技術文書システムを強化します。

マイグレーションの準備

マイグレーションは、プロジェクトの出だしではそれほど困難な作業には思えないことが多いのですが、実際には大変に複雑な作業です。マイグレーションは、以下の段階に分けることができます。

- マイグレーションするデータソースを識別する（旧アプリケーション、個別のデータベース、さまざまなドキュメントなど）。
- データをアップグレードする（データの整理、補足、整合性チェック）。
- 進行中のプロセスのマイグレーションを検討する（例：進行中の購入依頼）。
- マイグレーションツールを準備する（データの準備およびフォーマット化用のSQLスクリプト、JCL、インポートスクリプト、手動プロセスの定義、確認プロセスなど）。
- 実際規模でテストを実行する。
- マイグレーションを実行、確認する。

マイグレーション作業の規模はコンテキストにより異なりますが、一般的に言ってマイグレーションとは、プロジェクトにかかる労力の少なくとも10分の1は要する複雑な作業です。

ユーザ教育を準備する

AssetCenterは、ユーザフレンドリそして対話的な機能モードを提供します。各ユーザのプロファイルと、ユーザが実行するプロシージャに応じて、研修の必要性は大きく異なります。

一方で、一時ユーザまたはあらかじめ研修を受けておらず、サポートを必要とするユーザ用に、制限された役割を定義できます。他方では、AssetCenterの強力なユーザインタフェースを有利に使用するために高度な研修を要する多面的な機能を定義できます。

ユーザ教育を社内で行う場合

この場合、ユーザ教育を前もって準備する必要があります。次のタスクを行います。

- トレーナを教育する。
- ユーザのプロファイルを識別し、ユーザの教育の準備をする（グループの構成、ロジスティックス、計画）。
- 様々な研修用に資料などを準備する。
- ユーザ教育のセッションを実施する。
- 結果を評価する（満足度、修了能力の評価など）。
- ユーザマニュアルを作成する。

多数のユーザが教育を受けなければならないため、ユーザ教育がプロジェクトのリソースを最も消費することも珍しくありません。

最後に、ユーザ教育のタイミングの重要性を強調します。ユーザ教育の時期が早すぎたり、遅すぎたりすると、新しいシステムの使用開始時に問題が発生する主要原因となりえます。

テスト実行

テストで費やす労力は、導入するシステムの重要性和複雑さに比例して決定します。テストでは、以下の事項を確認します。

- 機能面での結果が十分である。これは、ユーザと共に実行するテストの段階で判断できます。
- ソリューションが堅牢である。機能テストの段階で判断します。
- リスポンスタイム。性能テストの段階で判断します。

テストを実際に実行するにあたり、厳密に定義された手順に従う必要があります。またテストは、さまざまな機能を代表するものでなくてはなりません。

実際に使用を開始する

以下のタスクを実行します。

- 実際の使用を計画する（チーム構成、ユーザ教育、使用手順、コントロールパネルなど）。
- 本番環境を設定する（機器を取得する、ネットワークを設置、設定する、サーバにソフトウェアをインストールする、データベースを作成する。調整、テスト、など）。機器のサプライヤ側の納期に特に注意を払ってください。
- クライアントコンピュータを設定する。
- バックアップ手順を考案する（復元テスト、障害回復）。
- ユーザサポートのプロセスを設置する（チーム構成、教育、手順、コントロールパネルなど）。これは、ユーザの初回の教育と密接に関連付けて実行します。

舵取りプロジェクト

重要なプロジェクトの場合、舵取りプロジェクトを実施する必要があります。舵取りプロジェクトでは、ポートフォリオの規模、機能スコープ、関連ユーザを制限します。

導入

導入は、プロジェクトマネジメントの努力の成果であるといえます。導入段階は、以下の段階にさらに分けることができます。

初期化

初期化段階は、新しいシステムの使用開始前の秒読み段階です。初期化では、以下のことを行います。

- 必要なリソースを明確にする。
- 手順および計画を詳細に定義する。
- 重要な問題が発生した場合（例：マイグレーション）の巻き返し手順を定義する（トリガイベント、手段など）
- 困難なプロジェクトの場合、演習を行う。

実際に使用を開始する

この段階では、以下のことを行います。

- 決定
- 実行チームへの通知
- 企業全体への通知

実行

導入は、プロジェクトマネジメントの努力の成果であるといえます。この段階では以下のことを行います。

- ユーザに旧システムの使用停止を通知する。
- 旧アプリケーションの使用を停止する。
- データをマイグレーションする。
- テストを実行する。
- 新システムを使用開始する。
- 新システムを使用できることをユーザに通知する。

トラッキング

新システムの使用開始時は、特に念入りにトラッキングを行う必要があります。

- 可用性と動作を監視する。
- 実際のレスポンスタイムを監視する。
- データベースの整合性を定期的にチェックする。
- 各オペレーション（インタフェース、定期オペレーションなど）を初めて起動するたびにチェックを行う。

総まとめ

プロジェクトの総まとめでは、以下のことを行います。

- アプリケーションが提供する利点を評価する
- プロジェクトで得られた実績や経験、教訓などを分析する。
- 新しいシステムが安定したら結果を評価し、初期の目標と比較する。

